2012 年 9 月 12 日　宇宙核物理連絡協議会　日本物理学会インフォーマルミーティング
議事録

2012 年 10 月 4 日　第 1 版
2012 年 10 月 11 日　改訂

参加者（敬称略）
本林、石山、嶋、合川、平林、山口、西村、橋本、宮武、早川、梶野、志賀、上坂、石塚

議題
1. 事務局より報告
web page 移転完了（石山）　　情報を幹事（石山、嶋）まで
* top page は変わらず甲南大サーバ、contents は KEK サーバへ移行

2. 宇宙核関連施設近況報告
北大（合川）：　工学部 45MeV 電子線加速器/医学部陽子シンクロトロン加速器
　photon / neutron の beam course がある -- 核反応測定
理研（西村）：EURICA, SAMURAI; Rare-RI Ring
CNS（山口）：山口+ PD2 +（技術職員）　-- 実験提案は山口まで
　当面：共鳴散乱、(alpha,p) 直接測定
NewSUBARU（嶋）
　新実験ハッチ"GACKO" 共用開始（10 月）　<= 文科省私大補助金（甲南大）
　5-10 MeV photon はレーザー準備中（早川）
RCNP（嶋）：成果 - 90Zr(p,p') PDF / 12C Hoyle state etc 準備中 / ミュオン源
　来年３月までシャットダウン（耐震補強工事）　/ 宇宙核物理グループ継続 Ong
国立天文台（青木：事務局代理）：すばるの高分散分光器改良（イメージスライサ）
　軽い核の同位体がわかるか
KISS（石山）：建設は３月に終了
　オンライン試験開始（質量分離、gas cell - 9 月）、2014 共同利用開始目標、post workshop for Kiss (after EMIS)

3. 学会、研究会等報告
　r-過程研究会　2012 年 7 月 26 日
　(low-energy RI beams @RIKEN)　2012 年 10 月 14 日
　(NIC@Cairns)　2012 年 8 月 5-10 日
　物理学会シンポジウム　2012 年 9 月 13 日

4. 協議事項（次回シンポジウム企画等）

NAO シンポジウム協賛：10/17-19

5. その他

運営委員リスト（お願いのみ送ってまだ....）

代表、副代表：本林（理研）、久保野（理研）

運営委員：運営委員：青木（天文台）、宇都宮*（甲南大）、梶野*（天文台・東大）、合川（北大）、櫻井（東大・理研）、佐藤（東大）、嶋*（阪大 RCNP）、西村（理研）、野本（東大）、早川*（原研）、藤田（RCNP）、宮武（KEK）*、山口（東大 CNS）

13 名、うち執行委員* 5 名（数としては、このくらいが限度か）

宇核連を通して研究活性化に関する提案

本林

1）最近の新しい研究機会の登場を生かして研究の活性化をはかること。

2）原子核に関わる物理量が宇宙の現象にどう繋がっているか、繋がっていないか、また、それらがどのくらいわかっているか、を共有することが大切である。それを通して、宇宙に関連する研究を提案、実行している様々なグループの認識を高め、新しいアイディア、新しい共同研究を trigger する活動を強化すること。

3）分野での大型プロジェクト創出（例えば大型科研費の構想）のプラットフォームとなること。

梶野

1）宇宙核物理学を原子核物理学の一分野として establish すること。

2）そのために、学会での継続的なアピール（シンポ、ＷＳの企画）や日常的な活動を充実すること。

3）若い人の宇宙核物理/宇核連への帰属意識を高めるための勧誘、アピール活動を普段から展開すること。

4)「核物理学の将来」白書に「宇宙核物理学」を独立した分野として書き込むこと

宇宙核物理で解決すべき 10 の課題、最近 5 年間での実験、観測で得られた宇宙核物理の成果を募集する？（梶野）

早川

定期的な研究会を開催（日本語、若手中心）して、組織としての実体と、方向性をはっきりさせるのが良い。

加速器関係では、比較的狭い範囲の同好会等を立ち上げ、実績を積み、学会に脱皮していく例もある。宇宙核物理は、核物理の一部だが、サブカテゴリーとして明白な分野であると認知してもらい、そのためのフォーマルな活動というのが、大型予算の獲得や、実質的な連携した研究の遂行の上で必要。